

令和2年度事業計画

1. 文化財の研究事業

文化財調査業務、保存処理業務等の中で課題となった問題点や業務の過程で蓄積されたデータを基礎に、そこから生まれた着想、着眼点を発展させた研究活動や受託研究事業を行う。また、他機関との連携協力による研究活動など対外的な研究交流活動も積極的に進めるほか、研究成果の還元は学会、研究会等での発表・報告を行う。

科学研究費補助金

当研究所に所属する研究員は科学研究費補助金の出願が可能であり、積極的に申請して文化財に関する研究活動を進めている。科学研究費は研究者に対する補助金であるが、その管理はその所属機関に任されている。また、補助事業の実施に伴う研究機関の管理等に必要な経費として、主要な科学研究費については直接経費の30%が科学研究費間接経費としてその所属機関に措置される。

令和2年度の科学研究費補助金は、継続研究課題として5件が内定しており、新規研究課題として22件を現在申請中で、審査結果を待っている。

(1) 継続研究課題

基盤研究 (B) 補助金

「出土木製品マイクロ波加熱凍結乾燥処理法の実用化研究」

平成29年度～令和2年度 川本耕三 13,700千円 (研究期間合計額)

「海外文化財輸送技術との比較による日本の文化財輸送技術の発展に関する研究」

平成29年度～令和2年度 雨森久晃 11,600千円 (研究期間合計額)

基盤研究 (C) 基金

「石造物からみた中世寺院の求心性と情報発信力に関する基礎的研究」

令和元年度～令和3年度 佐藤亜聖 3,900千円 (研究期間合計額)

若手研究

「中世木札文書の史料学的研究」

令和元年度～令和4年度 服部光真 2,470千円 (研究期間合計額)

「城郭石垣の構築に用いられた石工技術の基礎的研究」

令和元年度～令和3年度 坂本 俊 3,770千円 (研究期間合計額)

(2) 新規申請中課題 (計22件)

| | |
|-------------|----|
| 基盤研究 (A) 一般 | 2件 |
| 基盤研究 (B) 一般 | 5件 |
| 基盤研究 (C) 一般 | 6件 |
| 若手研究 | 4件 |
| 挑戦的研究 (開拓) | 2件 |
| 挑戦的研究 (萌芽) | 3件 |

2. 文化財の調査・整理事業

文化財調査修復研究グループ

人文科学担当

令和2年度の南都十輪院歴史資料調査および寺史編纂事業は引き続き関連資料調査を行う。

総本山長谷寺文化財等保存調査事業は令和2年度も継続して実施する。

世界文化遺産指定推進のための四国遍路札所寺院の文化財詳細調査業務は継続して行う予定である。

考古学担当

奈良県を中心に関西での発掘調査及び整理作業を予定している。

史跡管理のための石塔調査は昨年度に引き続き銘文判読を含めた詳細調査を行う。

記録資料担当

継続している国立歴史民俗博物館所蔵資料のコンディション調査は15年目を迎える。

保存科学研究グループ

文化財を後世に伝えるには、保存処理後も定期的に資料の形状や表面状態などを調査することが必要である。同時に資料の劣化の進行を抑えるためには収蔵環境が適切であるかの調査も必要である。さらにそれらの結果から今後の改善策を提案している。

過去に保存修理を行った重要文化の大型木製品保存状態調査や、ユネスコ世界記憶遺産の展示・収蔵環境の調査を行い、改善計画の策定を予定している。

奈良市補助金事業 仏教民俗資料の収集調査

奈良市内所在石造文化財の調査（10）

令和2年度も令和元年度に引き続き、奈良市内に所在する古式の宝篋印塔や五輪塔などについて詳細な調査を行い、情報開示を行おうとするものである。

調査・研究の成果については、『元興寺文化財研究所研究報告』に掲載し、奈良県内の教育委員会、図書館、博物館、大学をはじめとする全国の文化財関連機関に配布する。

3. 文化財の分析事業

保存科学研究グループ

文化財を自然科学的手法で分析することによって、その材質や構造等を明らかにし、産地や年代等を推定することができる。資料の顕微鏡観察、金属や顔料の蛍光X線分析、漆や繊維の赤外分光分析等を行う。

4. 文化財の保存修復事業

文化財調査修復研究グループ

伝世資料担当

令和2年度も重要文化財を中心に現地処置も行いながら修復を行う。東日本大震災による被災資料の修理も引き続き行う予定である。

記録資料担当

文書・絵図類等の紙資料の修復事業は漉嵌法^{すきばめほう}、繕い、裏打ちなどの技法を用い、資料の原形を損なわない修復を原則として進めている。公共団体を中心に業務を受けて実施する予定である。

埋蔵文化財保存研究グループ

木製品担当

平成31年度も重要文化財を中心に保存修理を行なう予定である。

金属製品担当

継続して行っている国宝の修理では銅剣の保存修理、出土金属製品の保存修理を行う。

その他重要文化財を中心に保存修理などを予定している。

土器・3D担当

重要文化財の保存修理、支持台作製等を予定している。

また、当室では三次元計測等の事業も継続して行っており、昨年度に引き続き、国宝の三次元計測及び保管台の改修事業を実施する予定である。

5. 研究会、展覧会、講演会の開催及び開催支援事業

春季企画展

『元興寺地蔵会奉納行燈絵展—須田剋太画伯奉納行燈絵を中心に』（仮）

※宗教学法人元興寺と共催

開催期間 4月25日(土)～5月10日(日)

開催場所 元興寺法輪館

昨年度に引き続き奉納行燈絵展を開催する。

本年は、元興寺と縁が深く元興寺を愛し続けた須田剋太画伯が逝去し30年となることに因み、画伯から元興寺に奉納された行燈絵を貼り交ぜた屏風を展示の中心として展観する。

展観予定の作品は下記のとおり。

・須田剋太 「行燈絵貼交六曲屏風」 2隻 「桜絵二曲小屏風」 1隻

・地蔵会・献灯供養発起人行燈絵 6点

上司海雲、亀井勝一郎、上野直昭、杉本健吉、有光次郎、安倍能成

・棟方志功 行燈絵および地蔵尊御影 各1点

・文化勲章受章者、文化功労者 行燈絵 15点

千宗室(第15代) 帳佐美行 青山杉雨 末永雅雄 西川寧 桑原武夫

獅子文六 島田章三 坪井清足 田中一光 榎有恒 川口松太郎 今日出海

海音寺潮五郎 石田茂作

秋季特別展

『もの・わざ・おもい—復元模造品の世界—』（仮題）

※宗教学法人元興寺と共催

開催期間 10月24日(土)～11月15日(日)

開催場所 元興寺法輪館

元興寺文化財研究所では文化財全般の調査・保存・修復を50年以上手掛けてきた。

その保存修復の仕事は人類共通の遺産である文化財の履歴情報を明らかにして、本物を後世に残し、伝えることにある。しかし、文化財をそのままの形で保存修復して残すには限界があり、形や色に変化する文化財を後世に残す手法として模造品を製作して、残り伝えてきた。

その模造品の手法も従来の型取り手法から3次元プリンターを用いたデジタルレプリカが登場して、その応用範囲も飛躍的に進展してきた。当研究所では、このデジタルレプリカを先駆的に導入して、文化財に利用してきた実績がある。

その一方で、現状では元の形や製作方法が不明な文化財を、理化学的手法を使って、履歴情報を明らかにし、その得られた情報からできる限り元の材質や製作技法を使って復元模造品を制作して、文化財の本来持っている情報を残し伝えていくことも積極的に行ってきた。

今回の展覧会では、文化財を残し、伝える方法として当研究所が行ってきた絵画や考古遺物から民具に至る文化財全般の復元模造品を集めて、その復元模造品の世界を一般の人に見てもらい、文化財に使われていた古の技術や作り手のおもいまでをこめて、どのように再現してきたのかを示し、文化財を残し伝えるということの意義を問い直してみたい。

会期中に研究員による講演会を1回、ミニシンポジウムを1回の開催を予定している。

文化講座の開催

実践文化財学

講座編「保存科学から歴史を読むⅡ」

元興寺文化財研究所が創立以来半世紀にわたって行ってきた元興寺の歴史や文化財に関する人文、考古、保存科学などの各分野からの多面的調査や研究の蓄積と最新の成果を、研究所研究員がわかりやすく報告する。

場所 総合文化財センター 時間 13:30～15:00

| | | | |
|-----|--------|---------------------------------------|------|
| 第1回 | 5月13日 | 「古代の金属器生産技術に迫る」 | 塚本敏夫 |
| 第2回 | 6月10日 | 「文化財の自然科学的観察」 | 山口繁生 |
| 第3回 | 7月8日 | 「民具研究と科学分析」 | 桃井宏和 |
| 第4回 | 9月9日 | 「記録としての写真」 | 大久保治 |
| 第5回 | 10月14日 | 「大型資料を後世に残すには —大型民俗資料・美術工芸品の保存修復—」 | 雨森久晃 |
| 第6回 | 11月11日 | 「古代の組紐技法 —解析と復元—」 | 小村真理 |
| 第7回 | 12月9日 | 「絵図修復の世界」 | 金山正子 |

* 8月を除く5月から12月までの第2水曜日に開催

展覧会等の開催支援

『発掘された日本列島2020』展

平成20年度から受託している文化庁と開催各館とが主催する『発掘された日本列島』展の開催と運営に関する業務について、令和2年度についても継続して実施予定となり、総合評価落札方式による一般競争入札方式で実施する旨が告示された。この方式は技術・ノウハウ等の価格以外の要素と入札金額を総合的に評価して落札者を決定する方式である。現在入札のための技術提案書等の書類を作成中である。

令和2年度の開催館予定館は下記の通り。

| | | | |
|--------------------|------------|-----------|------|
| 東京都江戸東京博物館（東京都墨田区） | 6月6日（土）～ | 8月10日（日） | 59日間 |
| 新潟県立歴史博物館（新潟県長岡市） | 8月22日（土）～ | 9月27日（日） | 32日間 |
| 福島県立博物館（福島県会津若松市） | 10月10日（土）～ | 11月15日（日） | 32日間 |
| 一宮市博物館（愛知県一宮市） | 11月28日（土）～ | 12月27日（日） | 26日間 |
| 中津市歴史博物館（大分県中津市） | 1月16日（土）～ | 2月21日（日） | 32日間 |

元興寺文化財管理業務

世界遺産元興寺と所有文化財の管理指導として、境内施設環境の管理と法輪館の展示管理業務等を行う。

6. 報告書、書籍等の刊行

公益財団法人 荏原 畠山文化財団助成事業

『元興寺文化財研究所研究報告2020』（1,300冊）の刊行

公益財団法人^{えぼら}荏原 畠山記念文化財団からの助成金を受け刊行を予定している。

7. 体験活動

施設見学等

研究、調査成果を社会に還元し、文化財の保護の重要性に対する深い理解と関心を高めることを目的として、博物館実習、職場体験、施設見学を受け入れる。

総合文化財センターにおいては、定期的に一般個人向けの施設見学会を開催する。

開催日は6月10日（水）、7月8日（水）、9月9日（水）、10月14日（水）、11月11日（水）、12月9日（水）、1月13日（水）の7回を予定している。

なお、団体見学については日程を調整しながら業務に支障の無い範囲で随時受け入れる。